

学校番号 37504 札幌市立前田中学校

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年(2025年)3月4日

札幌市立前田中学校

1 本年度の学校経営の基本方針

- 生徒、家庭、地域と一体になった教育活動の推進と明るく元気な挨拶とコミュニケーションの通い合う学校
- 認め合い、学び合い、高め合いを育むきよく活動の充実
- 「子どもの声を聴く」姿勢を常に意識する
- 生徒一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりと教師と生徒の構築

2 本年度の学校経営の重点

- 「学ぶ力」「豊かな心」「健やかな体」を育成する教育課程の編成と教育活動の展開
- 課題探究的な学習を取り入れた、分かる・できる・楽しい「授業づくり」の充実
- 共感的な生徒理解と、場面に応じた積極的かつ効果的な生徒指導の推進
- 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進
- インクルーシブ教育と特別支援教育の推進
- 生徒の自主性や自立性、他者への思いやり、自己有用感を高める教育活動の展開
- 保護者、関係諸学校、地域社会との連携協力を基盤とした、相互の信頼関係の構築
- 互いに信頼し合い、チームとして共通の理念に向かう同僚性の高い教員集団づくり
- 日常的な研鑽、互いの切磋琢磨による資質の向上と専門性の深化

3 自己評価結果および学校関係者評価者による評価

領 域	評 価 項 目	自 己 評 価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校運営・教育課程	学校教育目標や教育方針が生徒の実態を把握したものになっている。	A	・各種調査を通じて、生徒の実態把握に努めてきました。引き続き、数値的な根拠をもとに分析し、方針を定めていきます。	A	A
	学校教育目標や教育方針は全教職員に理解され、同一歩調で推進されている。	A	・引き続き同一歩調で推進できるようにしていきます。	A	A
	学習指導要領に基づき、教育課程の編成・実施は適切なものになっている。	A	・指導要領改訂から時間も経ち、より適切なものになってきています。反省をもとに引き続き適切に実施できるよう努めていきます。	A	A
	学校生活の充実と発展のために、学校行事が組織的・計画的に推進されている。	A	・コロナ禍で一度形が変わったものについて、その対応で得られたよさや、それ以前の形のよさを合わせ、本校の新しい学校行事の形が確立されてきています。子どもたちが大変意欲的に活動しているため、成長のプラスになるよう、今後も反省を生かしながら推進していきます。	A	A
学習指導	基礎・基本の確実な定着を図る学習活動が行われている。	A	・主体的・対話的で深い学びになるよう、グループワークやペアワークといった学習隊形の工夫や、1人1台端末の活用等、各教科工夫しています。引き続き、校内研修等による研鑽を積んでいきます。 ・来年度、定期テストの回数が減るため各小テスト等に向けた学習を計画的に進められるよう適切な支援をしていきます。	A	A
	指導計画や評価計画に基づいた授業や、適切な評価が行われている。	A	・計画的に授業が進められました。来年度は前期・後期制になるため、3月の校内研修会や今後の教科会等で、年間の評価計画を練り直していきます。	A	A
	総合的な学習の時間は、ねらいが明確に示され充実した内容となっている。	A	・自ら課題を見つけるなど、主体的に学習に取り組んでいる様子が分かります。今後も、充実した内容となるように、学校全体で組織的・計画的に取り組んでいきます。	A	A
	道徳の時間は、生徒の道徳心を育む内容になっている。	A	・薬物防止教室等の全校道徳や、各学年に適した内容の性に関わる学年全体道徳や、養護教諭による道徳を計画的に行うことができました。来年度以降も継続して実施できるようにします。 ・ローテーション道徳で様々な先生が様々な視点で生徒のよさを見取ることができました。来年度も実施していきます。	A	A
	中学校3年間の見通しのある進路指導を推進している。	A	・昨年度の教職員反省の内容を生かし、進路担当による進路学習を計画的に行うことができました。また、1年生は職業人に来ていただいての体験・講話、2年生は校外での職場体験といったように、コロナ禍で実施できなかったような活動に挑戦できました。今年度の反省を生かし、来年度、本校としてのベースを確立させていきます。	A	A

	家庭学習の習慣が身につく取り組みを行っている。	B	・アンケートの結果から、80%～85%程度の生徒が積極的に楽しく授業に参加していることが分かりますが、その割合と比べると、基礎基本が十分に身につけていないと判断している生徒や、家庭学習の習慣がついていないと判断している生徒が少し多いように感じます。「分かる・できる・楽しい授業づくり」をより充実させる等の努力や、前期・後期制に合わせた学習計画の支援を工夫して行っています。	A	A
--	-------------------------	---	--	---	---

領 域	評 価 項 目	自 己 評 価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生活指導	学校は、明るく落ち着いた雰囲気になっている。	A	・学校評価アンケートの結果から分かるように大半の生徒が学校生活について「楽しさ」を実感しており、落ち着いた生活もできていると思われます。今後も、教育相談や、子どもたちのよさに着目した教育等を計画的に行い、生徒理解や、効果的な生徒指導を推進していきます。	A	A
	生徒に、きまりやマナーを守る指導がなされ、基本的な生活習慣が身についている。	B	・交通ルールや歩行マナー、公共の場所の使用の仕方等についての地域の方からの指摘がいくつかあったこともあり、生徒のアンケートでも肯定的な回答が少なくなっています。教師サイドからだけでなく、主体的に問題解決に取り組む態度が育つよう、生徒会役員や生活委員会といった生徒発信の呼びかけ等も行っていきたい。	A	A
	教師と生徒、生徒同士の望ましい人間関係づくりに努めている。	A	・教師と生徒の関係は、これからも日常の生徒観察、積極的なコミュニケーションの充実に努めます。 ・生徒同士については、学校行事等の適切な場面において、互いのよさを見つけあい、認め合う活動をより充実していきます。	A	A
保護者や地域との連携	校長・教頭への報告・連絡・相談を適切に行うなど、生徒指導の体制が整備されている。	A	・引き続き連携を大切にし、いじめ対策委員会等の組織的な活動にも重点を置き取り組んでいきたいと思います。	A	A
	学校と家庭との連携が密に行われている。	A	・家庭によっては、連絡が通じず連携がうまくいかないことがありました。家庭と目的を共有し、連絡システム『すぐー』の活用など情報の伝え方に、より一層の工夫をしたいと考えます。	A	A
	学校の教育活動が保護者や地域にきちんと発信されている。	A	・今年度は、全校道徳に保護者の方も参加可能にするなどの取組を行いました。このような取組の拡大や、学校だよりやホームページの内容を充実等に引き続き努めていきます。	A	A
	家庭・PTA・地域の協力体制が確立され、円滑な活動が行われている。	A	・保護者の方々の協力を得て、PTA主催の保護者向け講座等を行ったりしました。負担のないPTA活動の在り方を模索しながらも地域や保護者との連携方法について研鑽していきます。	A	A
	近隣の小学校や中学校、幼稚園や大学との連携が図られている。	A	・近隣の小学校と交流会を複数回行うことができ、学習面や生活行動面での生徒の支援方法なども校種を越えて交流することができました。また、3学年の総合的な学習の時間に科学大学を訪問したり、科学大学のよさこいサークルの生徒が体育の時間に指導に来てくれました。家庭科では幼児ふれあい交流という授業を実施していました。今後も、各所との信頼関係をさらに深め、より連携を強固なものとしていきたいです。	A	B
学校関係者評価者による意見	・一人一人の思いや考えを大切にした取組の積み重ねにより、生徒の生き生きと活動する姿が広がり、学校全体の一体感が作られている。 ・子どもの声を聴く雰囲気を大切にした関わりから安心感が広がり、生徒会を中心としたアクティブな動きにつながっている。また、リーダーシップとフォロワーシップのつながりも素敵である。 ・中学校ではタブレットを活用できていると聞き良い事だと思いました。初めて生徒による学校行事の説明を聞きましたが、映像もあってわかりやすかったです。 ・スクールガードを月2回行っていますが、前中のどの子どもたちも声掛けをするとしっかりとあいさつをしてくれます。家庭でも、学校でもよい教育をされているんだと感じています。 ・小中一貫教育の取組の充実に向けて、学校全体での情報共有とともにもう少し意識の高まりが欲しいと感じる。管理職や実務担当者がリーダーシップを発揮し、学校組織として取組を充実させる機運を高めていただきたい。				